聖隷浜松病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは、基幹施設である聖隷浜松病院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。聖隷浜松病院においては小児も含めた一般の外科系の麻酔から、周産期麻酔、新生児麻酔、心臓血管外科麻酔（小児、成人）まで、多種多様な症例の経験が可能である。特殊麻酔の必要件数は当院のみの症例数でも満たされる。また、緩和医療、集中治療、救急領域においても当院で研修可能である。連携施設での研修によりさらに知識や経験を深めて、幅広く研修を行う。

人材育成センターのサポートも充実し、常により良い教育体制を構築していくことを目指しており、それぞれの事情や希望に対応しながら到達目標を達成できる。

学会発表の機会は国内だけでなく、海外での発表にむけて英語論文の理解力を深めるための医学英語トレーニングの機会も設けている。

チームでの麻酔管理をめざし、仲間の麻酔管理を観察しながら固定観念にとらわれないフレキシビリティー溢れた臨床能力を磨き続け、長く活躍できる麻酔専門医を育成することが目標である。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修期間中の最低1年間は，専門研修基幹施設で研修を行う．

- 希望に応じて当院あるいは連携施設を選択し、ペインクリニックや集中治療を含む様々な症例も経験する。
- 地域医療の維持のため聖隷三方原病院、静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院にても研修を行うことができる。
- 小児・新生児麻酔の更なる知識を深めるため、四国こどもとおとなの医療センター、あいち小児医療センターにて研修を行うことができる。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する.

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目	４年目
A	聖隷浜松病院	静岡市立静岡病院	聖隷三方原病院（ペイン、緩和も含む）	静岡済生会総合病院
B	聖隷浜松病院	聖隷浜松病院	あいち小児医療センター	東京女子医科大学あるいは徳島大学小倉記念病院（ペイン、集中治療）愛知医科大学
C	聖隷浜松病院	琉球大学・聖路加国際病院など	聖隷浜松病院	聖隷浜松病院（集中治療など含む）

週間予定表

聖隷浜松病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	周術期外来	手術室	手術室 術後回診（APS）	手術室	休み	拘束
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	拘束
			拘束				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

聖隷浜松病院

研修プログラム統括責任者：鳥羽好恵

専門研修指導医：鳥羽好恵（麻酔）
小倉冨美子（麻酔）
鈴木清由（麻酔）
奥井悠介（麻酔）
池上宏美（麻酔）
近藤聡子（麻酔）
日比野世光（麻酔）
林伶奈（麻酔）
林美帆（麻酔）
菊池高史（麻酔）
堤 啓彰（麻酔）

認定病院番号;233

特徴：心臓血管外科麻酔、周産期麻酔を含め、各分野において新生児から成人の様々な手術麻酔を経験可能。

心臓血管麻酔専門研修医認定施設、集中治療学会専門研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設。

② **専門研修連携施設**

聖隷三方原病院

研修プログラム統括責任者：加藤　茂

専門研修指導医：加藤　茂（麻酔、ペインクリニック）
金丸　哲也（麻酔、ペインクリニック）
木下　浩之（麻酔、集中治療、生理学、薬理学）
杉浦　弥栄子（麻酔、ペインクリニック）
植田　広（麻酔）
小林　充（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：378

特徴：年間 3000 症例以上の周術期管理かつ、ペインクリニック、緩和ケア医療も積極的に行っている。症例は心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科など様々であり、泌尿器科の Da Vinci 手術麻酔や、ドクターヘリを擁した三次救急から救急症例も多く経験できる。これら症例の臨床を通じ、周術期管理を習得することが出来る。そして静脈穿刺はもちろんのこと、動脈穿刺、中心静脈穿刺、硬膜外穿刺、くも膜下穿刺などをストレスなくできるようにすること、気管支鏡操作や経食道心エコー操作などの技術を得ることが出来る。

東京女子医科大学病院（以下，東京女子医科大学本院）

研修プログラム統括責任者：長坂　安子（麻酔）

専門研修指導医：

長坂　安子（麻酔）

黒川　智(麻酔)
尾崎　恭子(麻酔)
鈴木　康之(麻酔)
笹川　智貴(麻酔，ペインクリニック)
吉谷　健司（麻酔)
土井　健司(麻酔)
石川　高(麻酔)
古井　郁恵(麻酔)
森脇　翔太（麻酔)
武石　健太(麻酔)
中澤　莉沙(麻酔)
加賀屋　菜々(麻酔)
鈴木　真也(麻酔)
川本　英智（麻酔)
羽二生　顕（麻酔)

認定病院番号：32
特徴：豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修・ペインクリニック・緩和ケアの研修も可能です．心臓麻酔研修は特に力を入れており，心臓麻酔専門医の取得も可能です．多種の臓器移植（心臓・腎臓）や合併症（先天性心疾患等）妊娠の管理，エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します．

徳島大学病院
研修実施責任者：田中克哉
専門研修指導医：田中克哉（麻酔)
酒井陽子（麻酔)
角田奈美（麻酔)
川西良典（麻酔)
香留季実子（麻酔)
木下倫子（麻酔)
笠井飛鳥（麻酔・ペイン)
中路佳美（麻酔)
専門医：村上千晶（麻酔)
眞鍋佐和（麻酔)
佐々木秀人（麻酔)
米澤宏記（心臓血管麻酔)

福田亜里香（麻酔）
前田悠樹（麻酔）
蓑手孝宗（麻酔）

研修委員会認定病院取得 認定番号　10

特徴：心臓血管外科を含め、各領域にわたり十分な症例数がある. ペイン，集中治療のローテーション可能.

琉球大学病院

研修実施責任者：垣花　学

専門研修指導医：垣花　学（麻酔）
中村清哉（麻酔，ペインクリニック、緩和）
渕上竜也（麻酔，集中治療）
大城匡勝（麻酔）
照屋孝二（麻酔，集中治療）
野口信弘（麻酔）
神里興太（麻酔，集中治療）
宜野座到（麻酔）
仲嶺洋介（麻酔）
渡邉洋平（麻酔）
桃原志穂（麻酔）
幾世橋美由紀（麻酔）
渡慶次さやか（麻酔，ペインクリニック）
小田浩央（麻酔，集中治療）
和泉俊輔（麻酔）
林　美鈴（麻酔，集中治療）
松尾敬介（麻酔）
新里勇人（麻酔，ペインクリニック）
山川翔太（麻酔）
我喜屋亮太（麻酔）

専門医：福地万寿美（麻酔）
兼島充基　（麻酔）
知念加奈子（麻酔）

麻酔科認定病院番号　49

特徴：先進的な幅広い症例が経験でき、指導体制も充実している。
集中治療、ペインクリニックを含む集学的な周術期管理を学べる。

静岡市立静岡病院

専門研修連携施設

研修実施責任者：玉里　順子

専門研修指導医：玉里　順子（麻酔）
佐久間　潮里（麻酔）
寺田　尚弘（麻酔）
美根　智子（麻酔）
津久井　亮太（麻酔）
星野　駿（麻酔）

認定病院番号：487

特徴：

地域の救急を担う中核病院・ハートセンターとして緊急手術も多い病院です。特に心臓血管外科症例、循環器内科症例、循環器疾患を合併した非心臓手術の重症症例、呼吸器外科症例が多く、充実した指導体制の下で循環/呼吸管理の基本を徹底的に学べます。各麻酔の基本のみならず心エコーや体表のエコー神経ブロック技術等に関しては独自の教育プログラムを有しており、シミュレーションとベッドサイドの両方のトレーニングに加えて定期的な講義や試験があるため、短期間で専門的な知識と手技を確実に獲得することができます。

聖路加国際病院（麻酔科認定病院番号：249）

研修実施責任者：阿部　世紀

日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：

専門研修指導医：阿部　世紀　（麻酔、小児麻酔）
藤田　信子　（麻酔、心臓麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）
佐久間　麻里　（麻酔、救急）
林　怜史　（麻酔、心臓麻酔、ICU）
篠田　麻衣子　（麻酔、区域麻酔）
早坂　知子　（麻酔、区域麻酔）
宮坂　清之　（麻酔、小児麻酔、シミュレーション教育）
小山　杏奈　（麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）
城本　菜那　（麻酔、心臓麻酔）
大橋　雄大　（麻酔、産科麻酔）
井上　真由子　（麻酔、心臓麻酔）

坂野　彩　　（麻酔、心臓麻酔）
吉武　朱里　（麻酔、産科麻酔）
蓮下　雄大　（麻酔、ペインクリニック）
山上　郁雄　（麻酔、心臓麻酔）
ハシチウォヴィッチ トマシュ　（麻酔、APS）
鈴木亜沙美　（麻酔、産科麻酔）

当院の手術室は15室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Mitralclip、Da Vinci手術（泌尿器、呼吸器外科、婦人科、外科、心臓外科）など）も含めた、幅広い症例が経験できる。
挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる。

倉敷中央病院

研修実施責任者：　新庄　泰孝（麻酔科部長）
専門研修指導医：　新庄　泰孝（麻酔、集中治療）
大竹　由香（麻酔、緩和）
入江　洋正（麻酔、集中治療）
勝田　哲史（麻酔、集中治療）
池田　智子（麻酔、集中治療）
岡田　朋子（麻酔）
妹尾　浩史（麻酔）
久野村　仁嗣（麻酔）
専門医：　佐々木　敬則（麻酔）

専門研修指導医　8名
専門医　1名

麻酔科認定病院番号：113
1976年認定
最終更新日：2026年4月1日

麻酔科管理症例数　　3941症例
小児(6歳未満)の麻酔　　108症例

帝王切開の麻酔　　163症例
心臓血管外科の麻酔　　448症例
胸部外科の麻酔　　239症例
脳神経外科の麻酔　　132症例

特徴：倉敷中央病院は1172床を有する大規模総合病院である。2025年度の麻酔科管理症例数は3941件（全手術件数は10942件/年）であった。手術室30室（アイセンター、ハイブリッド手術室を含む）を有し、小児先天性心疾患手術、臓器移植手術以外の豊富な手術実績を有する。病院も高度先進医療を志向し、2019年5月に予防医療プラザも完成した。このような医療環境下、常に新しい知識と技術を習得することが可能である。専攻医初年度半年研修後から心臓麻酔研修を開始し、専攻医3年目からは術前外来を経験させている。

医療法人徳洲会　松原徳洲会病院

研修実施責任者：責任者：一澤 敦
専門研修指導医：一澤 敦（麻酔、心臓麻酔）
平田 隆彦（麻酔、集中治療）
亀井 大二郎（麻酔、心臓麻酔、神経ブロック）
専門医　　：今井 百恵（麻酔）

認定病院番号：1372
麻酔科管理症例数：1957　症例

特徴：当院麻酔科では、患者様が安心して手術が受けられるように、一人一人の状態や手術内容に応じて適切な麻酔方法を選択しています。（全身麻酔、神経ブロック、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、静脈麻酔など）
術前診察を通じて、持病や、既往歴を把握し、合併症のリスクを最小限に抑える取り組みも行っております。
主治医や多職種の医療スタッフと連携し、安全で質の高い麻酔管理を行っています。
非常勤麻酔科医の協力の下に、緊急手術も２４時間３６５日対応できる体制を取っています。

淀川キリスト教病院

研修実施責任者：小畑 友里江
専門研修指導医：小畑 友里江（麻酔）
川口 理佐（麻酔）
佐藤 仁信（麻酔、集中治療）

奥野 亜衣（麻酔）
平家 史博（麻酔）
専門医　：上田 浩平（麻酔）
不二樹 有花（麻酔）
山崎 克晃（麻酔）
田村 あゆ（麻酔）
岡田 薫（麻酔）
穆 慧麗（麻酔）

認定病院番号：548
麻酔科管理症例数：4,332症例

特徴：全人医療の実践を理念とし、患者一人一人のからだとこころとたましいに寄り添う、地域に根差した急性期病院。幅広い診療科があり、必須症例は約１年から２年で経験することが可能。集中治療やペインクリニックの研修も可能。

あいち小児保健医療総合センター

研修実施責任者：　宮津　光範
専門研修指導医：　宮津　光範（小児麻酔、小児集中治療、医療経済学）
山口由紀子（小児麻酔、産科麻酔）
加古　裕美（小児麻酔）
渡邉　文雄（小児麻酔、小児心臓麻酔、心臓エコー）
青木　智史（小児麻酔、小児集中治療、臨床倫理）
北村　佳奈（小児麻酔、小児心臓麻酔）
一柳　彰吾（小児麻酔、QI）
川津　佑太（小児麻酔、シミュレーション教育）
専門医：　中野　晃輔（小児麻酔、心臓麻酔）
森下　博隆（小児麻酔）
澤田　健　（小児麻酔）
手﨑　貴友（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：1472

特徴：すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。

＜当センターの強み＞
A.　概要

小児病院出身のエキスパートから直接指導が受けられる。指導医によるバラつきを極力減らすために制定された「標準手順書」に従って丁寧な指導を行う。標準手順書は最新のエビデンスに基づき毎年アップデートされている。急激に進む少子化の中にあっても麻酔件数は例年並を維持している。小児麻酔技術の習熟に最適な短時間手術が多く、短期間で効率よく経験を増やすことができる。MRI・CTなどの手術室外鎮静も麻酔科医が行っている。希望者は分娩時鎮痛（無痛分娩）に関与することもできる。

B. 独自の教育システム

高機能・高忠実度マネキンを用いた先進的な麻酔シミュレーション、スタッフによる系統レクチャーおよびケースカンファランスを効率的に組み合わせた独自の教育プログラムを実践している。英語の教科書を使った症例ベースの勉強会をフェロー主体で行っている。スタッフはアドバイザーとして参加する。

C. 小児心臓麻酔

新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が増加中であり、症例数は東海北陸地方で最多である。当センターは心臓血管麻酔専門医認定施設であるが、心臓血管麻酔専門医が複数名在籍する小児病院は全国でも稀である。フェローは３ヶ月経過後から心臓麻酔研修を開始する。3Dコンピュータグラフィックスを利用した経食道心エコー教育を導入している。センター内に3台の小児用EXCORを保有しており、心臓移植待機目的のLVAD管理を積極的に実施している。

D. 学術活動

臨床研究や論文執筆を含む研究指導にはとくに力を入れている。論文執筆時にはスタッフが責任をもってサポートするが、執筆は強制されない。名古屋大学医学部連携大学院を小児センター内に併設しており、当センターで勤務しながら「PhD; 博士（医学)」の学位取得が可能である。その他の学位取得実績としては、「MPH; 公衆衛生学修士（専門職)」、「MBA; 修士（経営学)」などがある。大学院授業の履修に支障がないように配慮された柔軟な勤務が可能である。

E. PICU

麻酔科はPICUの運営には直接関与していないが、希望者はPICU研修が可能である。東海北陸地方最多である16床のPICUは、麻酔科出身者を含む小児集中治療科専属医師らによりclosed運営されている。術後だけでなく救急経由の入室も多く、小児ECMOは全国トップクラスの症例数と成績を誇る。

F. 小児救命救急センター

ドクターヘリ搬送およびドクターデリバリー（当センター医師をヘリで派遣）が増加傾向であり、愛知県だけでなく岐阜県や三重県からも広く小児重症患者を集めている。

四国こどもとおとなの医療センター

研修プログラム統括責任者：多田文彦
専門研修指導医：多田文彦（麻酔，集中治療，緩和ケア）
甲藤貴子（麻酔）
山田暁大（麻酔）

研修委員会認定病院取得 認定番号　1636

特徴：中讃地区で中心的な役割を果たす施設．小児・産科・心臓手術などが比較的多く他の様々な手術麻酔も研修可能．

小倉記念病院

研修実施責任者：角本　眞一
専門研修指導医：角本　眞一（麻酔、集中治療）
中島　研　（救急）
宮脇　宏　（麻酔、集中治療）
近藤　香　（麻酔、集中治療）
松田　憲昌（麻酔、集中治療）
栗林　淳也（麻酔、集中治療）
小林　芳枝（麻酔、集中治療）
生津　綾乃（麻酔、集中治療）
柳　　明男（麻酔、集中治療）
釜鳴　紗桐（麻酔、集中治療）
彼末　行世（麻酔、集中治療）

研修委員会認定病院：52

特徴：心臓大血管手術のみならず、TAVR、Mitral clipなどの低侵襲手術にも力を入れている。循環器疾患を合併した非心臓手術の麻酔症例も数多く経験できる．集中治療にも力を入れている。

愛知医科大学病院

研修実施責任者：　野手　英明
専門研修指導医：　野手　英明　（麻酔、心臓麻酔、集中治療、ペインクリニック）
梶浦　貴裕　（麻酔、小児麻酔）

村松　愛　　（麻酔、集中治療、周産期麻酔）
稲垣　友紀子（麻酔、集中治療）
髙橋　徹朗　（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
佐藤　航　　（麻酔、集中治療）
中村　健人　（麻酔）
岡本　さくら（麻酔、集中治療）
上甲　利南　（麻酔）
鳥居　麻衣　（麻酔）
貞利　隆文　（麻酔、集中治療）

麻酔科認定病院番号：99

愛知医科大学病院の専門医育成の理念

理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

②　麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは専門研修基幹施設（以下基幹施設とする）である愛知医科大学病院を中心として、専門研修連携施設（一宮市立市民病院、名古屋掖済会病院、江南厚生病院、桑名市総合医療センター、中京病院、名古屋第二赤十字病院、あいち小児保健医療総合センター、総合大雄会病院、名古屋徳洲会総合病院、総合病院聖隷浜松病院、トヨタ記念病院、春日井市民病院、豊田厚生病院、津島市民病院院）（以下連携施設とする）からなる麻酔科専門研修プログラムです。

各研修施設の特徴を生かしたカリキュラムにより集中治療、ペインクリニック、小児麻酔、心臓手術、外傷手術（熱傷を含む）などを経験することも可能である。また、術前、術中だけでなく術後の回復までを見通した周術期管理を行うことのできる施設で、術後管理や集中治療を含めたより質の高い研修を行うことができる。ペインクリニック外来での研修を

通して、がん性疼痛や慢性疼痛の診療を体験することができる。本専門研修プログラムでは麻酔科領域専門研修プログラム整備基準に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医の育成に努める。

専門研修プログラムの運営方針

プログラム運営方針

研修施設及び各施設での研修期間に関しては、原則として研修プログラム統括責任者と専攻医の面談の上決定する。麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成するために、様々な職場環境や症例を経験できるよう複数の研修施設での専門研修を行うことを推奨する。研修内容・必要経験症例などの研修状況を半年に 1 回の頻度で確認し、プログラムに所属する全ての専攻医が研修期間 3 年間で必要経験数を達成できるようローテーションを構築する。3 年目以降には各専攻医のキャリアプランにも配慮した研修内容を提供できる環境にある。教室全体として JRACE, JBPOT, 麻酔専門試験などの認定試験の試験対策・勉強会などを行い資格の取得をバックアップしている。

取得可能なサブスペシャリティ

集中治療専門医　　心臓血管麻酔専門医*　　ペインクリニック専門医**

*について、小児心臓麻酔症例は中京病院で経験可能である。

**2024 年度からがん性疼痛に対する神経ブロックなどの診療も開始している。

湖東記念病院

研修プログラム統括責任者：人見英司

専門研修指導医：人見英司（麻酔）

認定病院番号;1837

脳神経外科、心臓血管外科の麻酔が比較的多いです。

夜間、緊急手術にも対応しています。

静岡済生会総合病院

研修実施責任者：小柴　真一

専門研修指導医：小柴　真一　（麻酔）

飯塚　浩基　（麻酔,ペインクリニック）

松永　雄太　（麻酔）

野中　輝美　（麻酔）

朴　　隆一　（麻酔）

認定病院番号：293

特徴：心臓外科・胸部外科・外科・整形外科・産婦人科・脳外科・形成外科・耳鼻科などの多彩な手術症例の麻酔を研修することができます。また希望があれば救急外来での研修も可能です。当院の麻酔科医はすごく優しいです、一緒に頑張りましょう。

麻酔管理症例数：2564

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，聖隷浜松病院専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

プログラム責任者　問い合わせ先
聖隷浜松病院　麻酔科
鳥羽好恵　部長
静岡県浜松市中区住吉２−１２−１２
TEL 053-474-2222
e-mail；hm-kenshu@sis.seirei.or.jp または　yosh-my@hotmail.co.jp

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7.　専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8.　専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う.
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる.
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす.
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は,それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める.

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする.
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる.

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は,やむを得ない場合,研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める.

13. 地域医療への対応

14. 本研修プログラムの連携施設には，静岡県地域医療の中核病院として、聖隷三方原病院、静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院が入っている。また当院と長年連携している徳島大学とも連携し、四国こどもとおとなの医療センターなど四国地方の地域医療にも貢献できるように配慮ができる。

医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります. 専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします. プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します.

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します.